

日本骨髄バンクの現状（2001年12月末）詳細は別添一覧を参照下さい。

	前月	当月	現在数	累計数
ドナー登録者数	2,891	2,096	146,019	179,201
患者登録者数	155	116	1,637	11,740
骨髄移植例数	68	89	-	3,778

注) 数値は速報値のため次月以降に訂正されることがあります。

① 骨髄バンク推進全国大会'01「10周年記念のつどい」開催。記念誌も発行

11月25日(日)、東京大学安田講堂(東京・本郷)で「10周年記念のつどい」が開催されました。骨髄バンクを通じて移植を受けられた方約70人、提供者された方約150人を含む、総勢約400人が一堂に会しました。1部では、財団理事長の挨拶、厚生労働副大臣など来賓のご祝辞があり、全米骨髄バンク(NMDF)からのビデオメッセージも紹介されました。バンクの「10年のあゆみ」と現状については、担当職員が説明にあたりました。2部は「患者さん、ドナーさんのつどい」。最初のコーナーは移植・提供経験者へのQ&A。登壇者だけでなく、客席の対象者も参加して行われ、会場が一体となりました。トークショーは刀根万里子さんの軽妙な進行ですすめられました。プロゴルファーの中溝裕子さん、マラソンランナーの深尾真美さん、移植・提供経験者の医師、医学生などから感動的な話を伺うことができました。次のコーナーは、大谷貴子さんの進行で、まだドナーにめぐり合えない患者さんの切実な思いと、ドナー登録会を精力的に開催している愛知県、沖縄県の取り組みが紹介されました。最後に、一人でも多くの患者さんに生きる希望が届くよう、全員でアピールを採択しました。ご参加、ご協力いただいた全国の皆さまに心よりお礼を申し上げます。なお、10周年記念誌「日本骨髄バンクのあゆみ」を発行し、すでに関係者、関係団体には配布済みです。骨髄バンクの10年の足跡を知るうえで最適の一冊です。ぜひ、多くの方々にお読みいただきたいと思います。

2 全国一斉登録会、各地で展開中。12月末までに111カ所で開催予定

当財団の10周年を記念し、全国一斉にドナー登録会が開催されています。地域によっては11月末よりスタート。12月末までに111カ所で登録会が予定されています。12月8日、9日を中心に、これまで73カ所で実施され、1315人の方々にご登録いただきました(速報値)。事前準備から当日の運営・実施までご協力いただいた方々、ありがとうございました。旭川は気温-7、吹雪のなかでの登録会。悪条件にも関わらず、保健所や日赤の方々のご協力いただきました。横浜では、小さなお子さんがボランティアとして大活躍。パンフレットにちらしをはさむ作業を、寒さでかじかむ手で懸命に手伝っていただきました。当日、会場でドナー登録して下さった問診担当の医師。お茶もお弁当も持ち込みでまさに手弁当で協力していただいた看護婦も。これから年末に向け、40カ所で登録会が続きます。関係者の皆さまのさらなるご支援をお願いいたします。

3 11月の移植数、過去最高の89件。登録者数も3カ月連続1500人超

11月の月間移植数が89件と過去最高を記録しました。今年の移植数は11月末現在、695件と、すでに昨年の年間移植数699件にせまる数です。ご提供いただきましたドナーとそのご家族の方々、関係者の皆さまのご理解とご尽力に感謝申し上げます。11月のドナー登録者数は2096人で、取消者数は488人、実質増加数は1608人という実績でした。登録会は69回実施され(うち献血並行型33回)、合計987人の方にご登録をいただきました。都道府県別の登録会の開催数は、兵庫9回、東京8回、沖縄、山口、栃木、三重4回、福島、福岡、大分が3回、秋田、新潟、岡山、宮城、静岡、岐阜、長崎、岩手が2回。愛知、北海道、大阪、埼玉、山形、茨城、京都、富山、香川、徳島、和歌山が1回でした。

4 臨時理事会・評議員会開催。基本財産取り崩し案、議決

11月21日、当財団臨時理事会、臨時評議員会が弘済会館(東京・麹町)で開催されました。(1)平成13年度一般会計・特別会計収支補正予算案並びに基本財産の取り崩し案について 骨髄移植の機会をより多く提供していくために、基本財産2億円を取り崩し、基本財産取り崩し収入として計上する収支補正予算案が議決されました。(2)患者負担金改定案について 平成14年4月1日を改定の目途とし、今後、厚生労働省と協議のうえ、細部を詰めていく ことになりました。医療保険の適用が全額又は一部認められた場合は、改めて検討します。(3)患者負担金支援基金の設置案について 患者負担金の支払いが困難な生活保護受給世帯及び生活困窮世帯の患者さんに対し負担金を援助することを目的とする「患者負担金支援基金」のための特別会計を設置することになりました。(4)理事 笹森清氏(日本労働総連合会長)、評議員 金子亮太郎氏(生命保険協会会長)を選任しました。

5 患者・ドナーの手紙交換のルール変更。移植後1年、2回までに

地区事務局やコーディネーターを通じて、患者さんとドナーの方が交わされる手紙について、ルールの一部が変更されました。これまで、1回（期限の定めなし）であった手紙の取次ぎが、2回まで、移植後1年のあいだとなりました。手紙交換の案内が十分でなく、移植後、2、3年経ってから、手紙が届くことがあり、病状を知らせることになってしまうなどの問題点が生じたため、さまざまな立場の方（患者関係者、ドナー、主治医、移植医、採取医、コーディネーター、地区事務局、移植調整部）が参加するワーキンググループで見直しがなされたものです。患者さん、ドナーの方ともに、氏名、住所、電話番号、生年月日、病名や移植病院やその所在地がわかるような内容は控えていただくこと、金銭、物品のお取次ぎはできないことについては、引き続き、ご理解いただきますようお願い申し上げます。

6 第7回コーディネーターブラッシュアップ研修会、今年は札幌で開催

12月21日（金）、22日（土）の2日間、札幌で、コーディネーターブラッシュアップ研修会が開催されます。全国から約130人が集まり、コーディネーター業務全般についての研修が行われます。今回も造血細胞移植学会と併設しての開催。骨髄移植・採取にかかわる一員としての理解をより深めるため、学会見学も予定されています。

7 患者さんと主治医のパンフレット改訂版、まもなく完成

当財団医療委員会で編集した「患者さんと主治医のためのパンフレット」の改訂版がまもなく完成、ご希望の方に年明けより配布いたします。骨髄移植や他の造血幹細胞をお考えの患者さんのために、疾患や治療法について解説しました。昨年発行された初版をベースに、最新の治療成績、セカンドオピニオンの求め方、血液疾患関連の用語解説などについての増補・改訂を行いました。患者さんが知りたいことを、できるだけわかりやすく、事実に基づいて解説してあります。主治医の先生といっしょにお読みいただき、最適な治療法を選択していただけるようお役立ていただければ幸いです。

8 バンクニュース19号を発行。バンク設立10周年、特集記事満載

12月12日、日本骨髄バンクニュース19号を発行しました。内容は、11月25日に開催された「10周年記念のつどい」のもよう、バンクのあゆみ、コーディネーター研修のレポート、バンクの財政危機についてなどです。

9 ドナーズネット(<http://www.donorsnet.net>)、10周年記念のつどいのレポートも

今月のインタビューは、「あいかちゃんのイチゴ登録会」や、登録会開催案内用ポスターでおなじみの加藤徳男さん。加藤さんはドナーを待っている患者さんでありながら、自らもバンクのボランティア活動に参加。「僕ら一家を通して、バンクを身近なものに感じてほしい」と話しています。

国際協力事業の状況()、HLA照合サービス状況期間

日本 米国	
米国 日本	
日本 台湾	
台湾 日本	
日本 韓国	
韓国 日本	
その他の国 日本	

* 4半期ごとに掲載です。

お知らせ